源注拾遺

一

紅葉賀

一常ならぬもの思ひまさるこの頃なれど三才○と雖　ひかる源氏の中将の
御ものゝ常ならぬ心ばへ人々。
一六かゝる人の神なるこゝろ四十オ○と雖　おりひめぶね渡りぬべき
夜なれど。たゞ一夜の逢瀬をだに。難しとぞ。思ひ。居たる。
そのよの。あけぬるこゝろ。なほ。なほ。
物ぐるほしう。たゞ。泣き。
十一　立居もあるわざとも。
月　たちゝ。ぬ。ひ。居。
十三　立居もあるたよりにも。
一かゝる。ほど。四十ウ　孟　垣代也　墨圓心。垣ゝ立ゝ。
紫東宮。
○と雖　仕注おぼつかなし。

本だう紀紀録に云。宮十人けがいしろうひろ[illegible]
う物打まぐるもよ。ひろ[illegible]る松風。まさとはうやおろしと言
うう身。吹ちよしうく
河海云。長秋卿筥譜云。
味花云。垣代云。[illegible]楽人をもちく垣代という歟。日本紀の
仕奉[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

反歌　ふるてかくやつてまてこそたにつてまてこそ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

一　ふるさとへいにしこころ　十七才　○と称　細流よりわかるる彩古
かりみてふ重子女王はうふく河事よ源室后又よりく。
まこもよさみしひけ高丹将義春ひさうく来ざりけるよ。
なでしこはなるつけ高つけ高つけ高つ

一からさごろもるまく　サニオ　○と鞍　さごもろけさうり。初
とさごひとりくさごむるがごろ。
けとうり日本紀に准況とろひなとらみとらば。
号ひ命とべし。河海は央の字をもとをわるを。
一ちりこそ咲けとこうあるふ。　サニオ　引歌
ひもおくもげるひ大ひかれけりこう友は浜をは
○と鞍　はを。何とつこう寄ふ足及とび作は家条と。
郭ときあるときけば大若木はりこう友はやこうまし
はをうまるかけうまるべし。
一さざかるはとうひとべこ祝　サニウ　引歌
白髪より黒髪まで白髪はとうとさざいとかるはとはりこび
○と鞍　こうはを万歳ふまで白髪と永女ふうり。接尾とも入。

黒髪より白髪までおのるまくかくこ意みをいをこのひまふ
一橋ぢらあと昭うるもと。　サニウ　細　引歌
はは思のるこの橋はけをはりはる柱ふりはるる身こうかるかはれ
○と鞍　さはは。新勅撰新写。遠遠分ふりけるこ人
接尾遠に　かぎりあく思ひまぢは橋はばら思ひまぢる中や絶ん新撰
さはこあくかけうあもうべし。
一ふとくまこひぬべし　サヒウ　孟　殆　ホトント　殆ふり○と鞍　ふのとをすこ
下はとを寄ぢ。ふとくまこひぬべしふふふふふ。ふふふふ。
いうあるく何せんとこうふ。作ふ。程　ほど　くこと
こうあるは。福をふる仏あ。こうり。
一ぬぐとをもうを　サハオ　○と鞍　柱仏寝ふ。椎は字。椿の

字ともよむ。すもろふと続く。

一おりのさまや 廿九オ ○と称 日本紀に。安措を知りなと

ゝあり

一ゝいうぐうゝゝゝ 廿九オ 注うゝむべ紀にみとあり。○と称

は注ゝゝゝ

○とゝ様　万葉集寄よ。ものごとかゝる寄なり。まこと二十よ下総国防人の寄よ。

むらたまの　くるくるかさかと　はなさりし　ひとりふたりの　こゝろをもとな

此寄はものをもとゝ　ものもとゝ　ものもとゝ　ものもとゝ　ものもとゝ　ものもとゝ

なり。又くるくるとは戸をいふ。山橋。新寄。をどせやうとは字

源氏に物よ摘戸とかゝれたる。

上　うち出て　ものよやゝ　ものよ　清みず　六十オ　○とゝ様　注撰京こ。

まうもうく。源氏。つゝ。つゝ。たりければ。

けちとたちかへり　ものとも　いつまでとゝ　君ごとに　寄花

小夫君寄。

あしびきの　いつまでとゝ　ものとゝ　ものとゝ　ものとゝ　ものとゝ　ものとゝ

一頭中将　ものとゝ　ものとゝ　七十ウ　河　不肖　万葉　○とゝ様　万葉

よ　此詞多。

一　ふるこもきみのうきくる　十丁オ　細景迹。花形迹。○とゝ様

花ものよ。合文。景迹。ものとゝ。形迹。ものとゝ。ものとゝ。形

迹。ものとゝ。ものとゝ。源氏。清むべ紀貫。詩文章は秀逸。

鶯策。ものよ。ものよ。ものよ。ものよ。ものよ。

一　そらみつ　ものくしも　十十オ　細　そらみつ。新。ものよ。ものよ。

ものよ。○とゝ様　新。ものよ。そらみつ。ものとゝ。ものとゝ。何よ。ものとゝ。ものよ。

ければ。ものよ。ものよ。ものよ。ものよ。ものよ。ものよ。ものよ。

一　ふるこもの　十三オ　河　不祥（フサハズ）　日本紀　○とゝ様　日本紀。不

祥。ものよ。ものよ。ものよ。ものよ。ものよ。ものよ。ものよ。ものよ。

ものよ。ものよ。ものよ。神代。ものよ。ものよ。ものよ。ものよ。古

事記。八千戈神御歌云。

奴婆多麻能（ヌバタマノ）　久路岐美

祁斯遠。麻都夫佐尓。登理与曽比。淡岐都登理。牟
那美流登岐婆。多〻藝毋。許禮婆。布佐波受。幣都
那美。曽迩奴岐宇氏。蘇迩杼理能。阿遠岐美祁斯
遠。麻都夫佐迩。登理与曽比。淡岐都登理。牟那美
流登岐婆。多〻藝毋。許毋布佐波受。幣都那美。曽
迩奴乗宇武。夜麻賀多尓。麻岐斯阿多尼都岐。曽
米紀賀斯流迩。斯米許呂毋。遠麻都夫佐尓。登理
与曽比。淡岐都登理。牟那美流登岐婆。多〻藝毋。
許斯与呂志云〻

却説。此巻の初に布佐波受も。俗よりて
ちるを。針袋なりとも。紀を考へ。
ちるを。針袋なりとも。紀を考へ。

又百姓千八人。大伴池主。坂上郎女。

一 はるかすみたちわたりかりがねはなきてこしぢへかへるなり。十三ウ
細 はるかすみたちわたりかりがねはなきてこしぢへかへるなり。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]をつくりくひひらかるくて。十二ウ ○とも按 古佐日記云。[illegible]日。[illegible]とつくりのかたちもあるなり出くる。[illegible]河[illegible]くる。[illegible]人くく。女[illegible]ひ[illegible]をとりてくるあるなり。[illegible]又大[illegible]をひろれくるもよく叶へる。通鑑[illegible]たるなる類例之。

一 いうよ[illegible]けん 十二ウ 河 愠 老子経 ○とも按 [illegible]子

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 よ[illegible]人ぎ[illegible]人[illegible]人[illegible]ん[illegible]く[illegible]ば。十三ウ ○とも按 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]たけ[illegible]いる和 十八オ 河 猛卒(メクライヒキ) ○とも按 [illegible](ヒサヅル) 日本紀 辛[illegible]字。[illegible]紀[illegible]

なり。何はなるは出てるみづ。堀つる水。日本紀に。嚴泉といふ
かこと。舒明紀に。御井を嚴井と。日べ紀に。二面
はよいしと紀に。瞋怒等は字なれど紀に。
一 ひとるあるあるる 十八オ ○とは 水。頼。頓。絶。既切。しほつ。
日本紀に。ひとるとあるとあるとあ

○とち狂　はやり言葉。くるくる人を。但何をもくるる者をいふ。ごとん
はやるべし。六帖。

はりくるはりくるはりくるは

一ものこそとくはなのかをるこそとおもへばうけばりとかしうるはなサ二オ○
と注　香　こそ。はなの紅うつるものこそあるなれ。サ一ウ
一夏はなの陰のあるくらをせるかくるこそ。サ一ウ
○と注　続拾遺紀云　清本如此
一けしはなのサ二ウ○と注　続拾遺紀　みるばかりのはなはなのうつる
きとをしらんこそ。
一けのあんうひさちしはるこそ。オ三ウ○と注　うぶ初花。春の花。
夏ちうひさちとはるの時をすぎてもなほしのびかれ
男冊子　郭公うぶかつをとさきそめてかくれぬとの原順
白氏文集　をさとはなかつをとさきそめてかくれぬとの原順
一はなとをしるこそ。サ五オ○と注　夏。
をしるこそ。はなのもとにはるのこそ。

ふるはるのはなのもとにはるのこそ。
をしるこそ。はるのはなのもとにはるのこそ。
下野はなのもとにはるのこそ。
いせのはるのはなのもとにはるのこそ。
一はるのこそ。サ五ウ　何　動　響　日本紀○と注　あらそはる。日
なれる。はるのこそ。はるのはなのもとにはるのこそ。
はるの風。万葉集。
大海はいそのもとにはるのこそ。
古寿
朝ものひさはのはるのはいつまやむはるのはやむはや
薬師寺。佛足石歌。
このつくる石はひとはいからのつちきはるのはるのこそ。

又梅さくと。ゆきとまがふ。同じ〻匂ひ。梅さくと。方丈記。雪中一日。

たまゆらとよ。玉響音とのたまへるなるべし。河海に出たれども字面とる

と侍りけれども。

一かりそめにもあだもおろそかにせじ。サ六オ 五 かくこそ思へ。

○と梅 かりそめに。且は。苟且は。苟且とかりそめ。

もとは。もとは。もとは。もとは。もとは。もとは。もとは。

百聯。如此。とのまうかつくもの。

もとは。もとは。もとは。もとは。もとは。もとは。

あるべし。かつとは。

一あはれ。サセウ ○と梅 あはれ。

一はるひ。はるひ。はるひ。はるひ。サハオ ○と梅 百聯。

勝。殊。異。はるひ。はるひ。はるひ。はるひ。

一竜は。はるひ。はるひ。はるひ。はるひ。サハオ ○と梅 はるひ。はるひ。はるひ。

一神は。人の。神は。人の。神は。人の。神は。人の。サハウ ○と梅 一方。

一神は。人の。神は。人の。神は。人の。神は。人の。

一神は。人の。神は。人の。神は。人の。神は。人の。

一神は。人の。神は。人の。神は。人の。神は。人の。

氏文集。哭崔児詩云。掌珠一顆児三歳。鬢雪千莖

父六旬。豈料汝先為異物。常憂吾不見成人。悲傷自断。非因劍。啼眼加昏。不是塵懐抱又空。天黙々依前重作鄙俗身。

一かくまでしたなよ　廿九オ　○と様　古今

世をうきものと思ふ山路に入ぬれば人もとわぬ人ぞなりける

一かくらくさびしくこそ　廿九オ　○と様　西鶴。哀傷。如御遊子女

亜かくれくなどもせもしひける。

ひとり物よむ人は世をのがれ侍る人なり　宋徽院作家

一物ぐるをしたがる　廿九オ　○と様　和名云。周易説卦云

其於木也為堅多心　師説。多心讀。何ぐらといふ詞なり

多心　奈賀古　可遍

一秋はけのそれもさうの物。風はけの音。　廿九オ　○と様　西鶴。

うつせみは世に事多くとも秋の物と秋風をもしらでつるもの

一朝がほ　廿九オ　○と様　はかなきもの。

朝がほ　廿九オ　○と様　はかなきもの。

一ものくるしく　廿九ウ　○と様　奇文。

ものくるしくこそ　廿九ウ　○と様　奇文。

ものくるしくこそ　廿九ウ　○と様　奇文。

ものくるしくこそ

一 [illegible] 卅七オ

[illegible]

○と梅 [illegible] 寿字[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible] 三十九ウ ○と鮭 [illegible]

[illegible]

[illegible] 和名

[illegible] 須東反。和名波奈。鼻液也。文字集略云。

[illegible] 他 礼反。又他細反。波奈加無。以手去鼻涕也。

一 世[illegible]の 四十オ 孟 惡(サカ) ○と結 悪字ハ日本紀ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible] 四十六ウ ○と鞍 鷲鷲尾

冷霜花室 [illegible]

一 [illegible] 四十七ウ ○と鞍 [illegible]

[illegible] 四十五オ ○と鞍 和名第十四、行旅具云、蒋勢切韻云、標刀委反、漢語抄云、標子、加礼比計、今案、俗所謂破子是也、

一 [illegible] 四十七ウ 河内国の餅をいろくるなり。

三日夜は餅を一ゑめるなり。[illegible] ○と鞍

[illegible]

一 [illegible] 四十七ウ ○と鞍 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

一今うぢのあそんのよきうまの[illegible]
父宮は許さじとて[illegible]
うの[illegible]二条院[illegible]

一面うちはらひはてぬ 四十九ウ ○と結 却もうぢよりたてまつる[illegible]
しかるべう六帖者四ヨ
月をさへ[illegible]

一[illegible]五十一オ 細
[illegible]
○と結 猶匂宮[illegible]
[illegible]

一[illegible]
[illegible]
和名云 尓雅注云。[illegible]音移。字亦作[illegible]加[illegible]
[illegible]

一けぢめ[illegible]
[illegible]

一[illegible]五十二オ ○と結 襤褸[illegible]
[illegible]

一[illegible]五十二ウ 河
[illegible]
○と結 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]

元日より二条はさたいはをしかくあるうちなどをたまりくくうるはしくてはうちなどと知るとくくうるびかくあるとト曰る云
[illegible]
家ごとのもの書きをけるとこれ[illegible]
たるとはくくるよや。

一 [illegible] 五十二ウ ○七月

[illegible]

[illegible]

賢木

一 うねめとおもはれるれんとおぼし。二十オ ○七月 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]
白氏紀[illegible]

一 [illegible] 四十ウ ○七月 宣方卿集。
たれるれんつぐはあるよ[illegible]

一 [illegible] 乙通女 ○七月 乙女 乙女とかく。俗[illegible]
たるる年[illegible]。乙は何[illegible]。於けるみく。遠[illegible]。少女と
[illegible]。津と登と[illegible]。津女[illegible]。

いへど。

一よみあるりめくるこゝろ。きくこゝろとび。十六オ ○七夕 ゆふあるりのへ
夜は秋ぞうり。七夕。侍るいつ。寄賀るりかなはあるをうへ初を
おくるりければ。りくあるこゝろ。ぶをうりけを世ろりて。
源氏は。威勢おとる。人たれをとはあめへ。をうくしうをく
なりくかたりひり。寄賀も見てびとうり。後撰をたたぶ
中はあるりのをうりたぐ。た浦がりくみりて来をうければ。
くしふる寄をうは初はをあるるをあるるをうり。た浦
ふりあくこゝろ。ひもすをうりくをくつれ振りどる。雅正
一后は侍がいつをあくこゝろ。十七オ ○七夕 たれりのぐうる。平
中あるかりは。思をうた女はあはけりくをあるくあるくおをうけり。
あくけるうあとぐをいひく。女つひよ振いぐけりあは女り

ちをつをやうりはんらうたりあるりひうぐんれやぐあどりちをく
いひけれぐちくたをよをうあるひあをぐ。十八ウ ○七夕 寄後をあ
一ようをどちくをうあるひあをぐ。筋をうをくをうをうへるあはをあ。酒
毎。紙をうへたをへぐ。猿がう。
一五をんはををうはうはうぐりあく。十九ウ ○七夕 をを白へ。
侍後はをうをあを酒へぐうへぐ。正月は侍後法を。侍をあ。み
しをうのひれをうへるあくも。ゆりへぐし。
一歌はく長月をかくをうをを。物のはくへは時ぐをもりく世
○七夕
万葉 妻百枝は織女がうあるをあるく時ををもりをまをうへ
古今 ひぐあをく地やうりりは郭公時ぐをもりくをぐりらん

一夜ぎうちたりうちたり自然廿一オ〇と雑　万葉集十
　時雨あをかりうちづくよ細くうぐいすなくなりのを
一ちりつくしをりをけるサ五ウ〇と雑　影紅葉敵をうちうち
　ちりぬるかあれをうけをうちとをたるひくらぐをたるかをと
　くちりてをうをるどけるかをうをるどけるかをたるをた
　をびをををうをうをきけををを

はやうくにたびたまひしことを新くにたまへり。

一 山つくりより毛さんらうしまち。廿三ウ ○と称 万葉集廿よ。

宮門は山西にあり。山人はれよりは山つくりぞなれ 玩弘 工部記

一 ぐうりみれりしもの。廿六オ ○と称 折りてをぐらつくり

かへるる河内。仲文部なり。

ひぐ仏ちくべせよおぐくは押とは我はなぐ。

一 うたをも人はこうは書も付もある。廿七ウ 細

山稼ぎうあるをうたをぐらはうたも人はあるうけり

○と称 山門は山。海。海経。海経朝倉。

みくぐ白人はなぐ。陸経。海経。海経はは

うたは作をみく。は朝倉。海経はは

きわぐ。さう古奇はあるうたは。引はうたぐひ

はけうたぐ。

一 仏はかうあるをいうあはあるをあはうたは行ん 廿八オ

○と称 はうより 考あるあるはあるかんあらは

えをあはうあく玉集 絵よいまう

一 らはへうし 廿九ウ ○と称 和名云、唐式云、染麻帝。廿

五張、穀帝、五十張、裱帝。廿張、裱、音方十反 袖端也。見唐

韻。かわぐ。表紙とうくを。晴推はうん。

一 ぢ 廿九ウ 細 帙 ○と称 日本紀に。英奉をんかを紀。

うあり。帙はあるうり。さわぐ。経をを。帙といひるあく。ふひうあ紀とい

ぐ。法隆寺はは玉物ぐ。為寺中ふも。は帙箱のいとゆく

まぐれるは。古代は物。ひたうたるつ経はうは紀。

一 ここをもうたびをうたびうあ。ぐうはんとば。いぐうをせん。 四十オ ○

と称 六帖よ。

[illegible]

一 [illegible] 四十二ウ ○と鞍 [illegible]

[illegible]。源氏。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。

仕奉。勅恒系ゝも。載せり。さちゝ人宮ゝ紙。仕奉ゝまでゝ紙。百千遍ゝ多ゝのゝだ。保知加敝里。とゝゝゝとゝ。ゝゝゝ人ゝゝゝ。かゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ

そこに河合屋なる女郎べし。四ハ。ぐるぐるとまりひてけり。何ふ
ふかるべく。
一 ふるかるべく。波立たる人を。四十ウ ⊙と絵 おろ浦べ。あるる家
五年。
ふるかるべくつくひ知くもこぐ紫は月よ。つくて歌はさりひる
一 小ぐるまくぐるぐる。七十オ ○と絵 東西 日本紀
一 ひとさえるよかるうり知りくるさま。七十オ ○と絵 えるつる。波紅
との人を。ふえるくどにつるも。波うびて。ふふ。知りよ
ふり。絵ば。海く知りまるも。人を。波うるくいれをいんを
えるとい人を。
一 ふ小ぐるべふりし。煙も。八十ウ ○と絵 新古今。哀傷よ。世は
ちるれはふるどるるびくふ。名ふるるくまる。

絵をるるく。此作ちけるる。
月ひ人はみびるるるし名をるを名をむつまで紅はぐるのるる
杉隆 小ぐるべふたるく煙はりたくぐるるる。我ちるる絵夜
一 小ぐし月をへだいるれはるるるも。十一オ ○と絵 いるるんいるを不
はるるふるるふるるる。絵ぐるるるを。
一 減をひるるるひくく 十二オ ○と絵 減は。月よるるるるをひへを。
一 ふ月ひ八はくるるる。十七オ ○と絵 河海よ。小ぐ新八はく
多紅ふるるるるるるるふ。小町家集。
新古今哀傷。小町。くひるるるふ。小町家集。
よ世は年は。ぐるるれよるるれるるを。絵はるる新物語。といふ人
世は年よるるるひくるる。絵はるるるるるるる

いうこもあくうをかひをもよ[illegible]
こぞたる。小所家集。小大君家集。入道宮たる[illegible]
さわれば。小大君が[illegible]。小所[illegible]
一 世をあくうのあるひとぞ[illegible]
○こと按　世をあくうをもとにたるこそ[illegible]

一 [illegible]
ゆくもるあはりひもかを。を[illegible]
一 こうゆうどサヨウ○こと按　[illegible]
[illegible]
あはれる。弁でのみうゆうどよ。山ぶ[illegible]
たるこうよやるこうこと行り。

一 かいのしづくもやこうこ[illegible]サミオ○こと按
[illegible]
古　夕津くるあはひこぞ[illegible]
[illegible]
一 [illegible]サミオ○今按　物よりを。[illegible]
[illegible]
一 [illegible]サロオ○今按　山河。[illegible]
[illegible]
久[illegible]の俗[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 ようなるもの〳〵 古来相 廿六オ ○ 今按 河海ニ

吾妹子の来てとりそまもれる相むつ海ぎきゆうりと花べば

代弁六帖ハ引用ス 彼方ニ 廿七オ ○ 今按 河海ニ

一 千沙弟ハ引用ス

秋ハ花 秋ハ花 命もちぐさ 表紙野の萩は古枝をやれとやくるる

代弁 沙弟ハ引用ス

秋ハ花 秋ハ花 枕のうち汐ハ 廿八オ

秋ハ花 秋ハ花 さぐみ

秋ハ花 秋ハ花 秋ハ花

[illegible]

一 [illegible]いせ人は[illegible]人おぐ 三十才 細

いせ人をうやしなわぬそうとのへぞ小あゆ多て泊めてくれまぐ

はうらる高。孫[illegible]つよや。○と梅 はり川雲。何ゆ[illegible]る。

一 せをは[illegible]ゆ[illegible]ひけんうるかぐ。サ一ウ ○と梅 はりの

ぐうりはなはるはるくうるやうに。秀句をつぐけうりいつまも

ゆうさるるくびんも。

一 [illegible]るはだたひさをるはけうぐ。サ四ウ

○と梅 [illegible]云 諸本不如此

一 [illegible]ゆくうるる。サ四ウ ○と梅

本朝文粹第十一。重陽後朝同賦秋雁櫓聲来。應製詩序。菅家云。秋雁者月令之賓也。櫓聲者風窓之聽也。觸物以感非来鏡湖之波馳心以思只望銀漢之岸又後相公同賦寒鴈識秋天應製詩序云。急響似機暗破孀閨之睡寒聲亂櫓忽伴漁舟之旅。

一 初雁はなびけるとぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

紀のたまたまたる事ヲ。

一我オ者ぞ。つきまとはれをせと。はぎのるまもひまいうぞうは。
うちぐ〳〵いつはるうんさまを。はりひく〳〵たもと。四十オ ○
ヒ梅 いくくうめけるみくりを切べ〳〵もくぐいだてみをは。
遠つのゆるかり。

一ケ月はるうんさまるもづう〳〵 四十一ウ ○ヒ梅 立はるもうん
さまぞやうはれ。松はるはんもづう〳〵。ぐをこ月たり。

一くいくてやうん 四十二オ 孟苦痛く ○ヒ梅 屋〳〵痛うて。
ぞり。

一いくうさくはるをとくく。四十三ウ

○ヒ梅 諸本如此

一いけるひつくと思人を 四十六オ ○ヒ梅 美盛集ヒ

一ふるはるはるは

一[illegible]　四十七ウ　○と梅　万葉

一たつづれはそなれいとりはてゝくつをもあらためずあ[illegible]

○と梅　是は河内よりよめる　万葉十五のこと[illegible]

多都我　奈多頭志　奈伎　多度　安之敝　左之　等比　佐奴　和多類　安

多都我　奈伎　安之敝　左之　等比　佐奴　禮婆

けふのけはじめは白ゐ鶴が鳴くとゐつゝたづさわれをそへ

たゝもうけさうくハゞそすえしたの入ねをたゝもうけはあれば

くしゐ友のもとゝもあるとつゝはやうるはと鶴と和と

如紀二句　ゆくうけふゝ　ゆくうけふゝ　或アがゐ　ゆくうけふゝ　ゆくうけふゝ

鶴の鳴とゝへたるとゝ　やりひくゝ　ゆくうけふゝ　ゆくうけふゝ

多頭志　多頭志　鶴之鳴を表とせる　多頭我

奈伎　奈伎　とゝ　とゝ　とゝ

障一條。うきよの日記。ぜじゆうかくまつり。

一ひぢがさ。五とう降さく。四十九オ○と梅　借こるよ

いもぶかしやせうぶかしひぢがさは。五りやうのやんちくたるをさ。けうまやどうの五やどう

やとうくまつりんしてやをとを。

万葉集十七。

妹が門出をうちのぞきてとうりまをせん

ちかをとこ六帖。ひぢがさは。ふるれんがくれせんとうり式

多。ひとへうくつやまうく。借こるよけうもたれをと出家なる

歌。山谷詩云。帰扇障小雨。ひぢがさ。ちうし。

一波いとうたちさく。四十九オ○と梅　日本紀。巖の字。

重はをとうたちのうちをとうとうとう

明石

一 狩ありくらうの紀山とりしめくや。法たうしの事。二十オ○と梅
古今 世はなれ山はけくやたのもねの栗山はきの葉ふるるはやはるまし
一 そうそうぶし 三十ウ○と梅 八月はなを。さくぶ花といふを五月
三乱 乱はなり。やまぶきの。学はなをうるとも。おこぶるもだをさてうくい。
名付ること。万葉なり。さくぶ花ふるは一首もなけれど。それ
後つけるなるべし。今もはなをうるべし。
一 くしよけるあるべしわど 三十オ 孟 苦し。河 霧屋し。○と梅
霧屋を用べし。苦を用べうべ。
一 いとうくぢはそあるべうるべ。ひまり。四十オ○と梅 和名抄
云。文字集略云。霈大雨也。音沛 日本私記云。火雨和名

比女 左 雨氷 上同。今俗云。氷降也。大
面はけうこそ。物よりうるる。ものうるる。ものうるる。
又俗よつうはは降といふ。突電なり。麦はけうむこうる降
なり。あくぐ降つけを。編あくかりたうん。そうるそうる。
大面を。ひまるといふ。ひまるはけうこうる。
降よ。ひはあぐこうこうこう

一なるとり[illegible]。六ウ○と梅　絲竹とは[illegible]
もむかし。浪殘[illegible]
なとは[illegible]
一[illegible]
○と梅　日本紀云　韓婦用韓語言云々　紀略記
一[illegible]
○と梅　他生は若慮[illegible]。河原左大臣[illegible]
河原院[illegible]
一月は[illegible]。十ウ○と梅　六帖[illegible]
[illegible]
一[illegible]
と梅　漢書云。天弔不取反受其殃。時至不行反受

其殃とは[illegible]。
一[illegible]
夫天命復寞疑。
一秋は[illegible]十一ウ○と梅　[illegible]
秋風[illegible]
一[illegible]
秋ごとかりの[illegible]
一いひしらたづを　何
[illegible]
○と梅　世[illegible]。何[illegible]
一[illegible]
秋は[illegible]

うゑび出てるもの。哀ハ。催馬楽や。夕月夜のけしきなりべし。
細見る。ちはやぶる。はさんべ。ぶるぶるとうつ。海の泡
とゐはれ。ゐはさん。ぶるぶるとうつ。時ならぬ。海の泡
のやうなる。清盛の。ひ出る。一注むかしの。
ちはやぶる。月のかたちに。ひ出る。○と梅　よりの。新恒
ぶるぶるとうつ。○と梅　よりの。新恒
のやうなる。家屋敷。十五夜月のかたちに。井
なる。清盛の。栄花。ゆめ。ゆめ。ゆめ。
そもそもこれ。かれ。井。月。
のやうなる。ひ出る。月。
いくさやけく。ぶるぶるとうつ。
うゐとうつ。

あるとき。西ぶるぶるとうつ。
六帖。かたち。川。見。
とうつ。船。ぶるぶるとうつ。
家。ぶるぶるとうつ。
やうなる。源氏のかたち。
船。泡。河波門。
ぶるぶるとうつ。
ぶるぶるとうつ。月。
ぶるぶるとうつ。
ぶるぶるとうつ。
一
入道。びくめ。
びくめ。

ゆめ。十七ウ　○と梅　無盛家

一ちはやぶるうちたちなびくたぐがどさしてこうそくの袖りの色十八才
細ゆきこそ雪よ折りなくたちくもゐ鶯だに問さしていはぬなりん
○とも梅　代寄　雪ふるとかりもとりもとりもと

何ふたつ寄のみ。

一秋は萩は月毛は弱よりゆがめるを手よかけれ時はたん ウ三十

○とも梅　万葉二

口七　妻弱はあり紅とを妻ゆゑ手弁みぞ妹ゴいつりはるてきるけ

口十一　妻弱はあり紅とを妻ゆゑ手弁みぞ妹ゴいつりはるてきるけ

[illegible]

一 ちりひしまるもの [illegible] 世三才 細

[illegible]

○とは [illegible] 何よ出する [illegible] 万葉集

[illegible]

[illegible]

一 [illegible] 世四才 ○とは [illegible]

[illegible]

[illegible] 万葉集十二

[illegible]

口十三 [illegible]

口十四 [illegible]

口 [illegible]

口二十 [illegible]

[illegible]

一 [illegible] 世七才 花も六月 ○とは [illegible]

[illegible]

一 [illegible] 世九才 ○とは 後撰集 [illegible]

一 [illegible] 四十オ○と梅　万葉四

一 [illegible] 紀云。田道間守至自常世國時賫物也非時香菓八竿八縵焉。延喜式云。橘子二十四蔭云。[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible] 四十三ウ○と梅　行[illegible]

一 [illegible] 四十五ウ　河海　海底　延喜二年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大雷山さうさうさうさ

本紀第廿五。孝徳紀云。天豊財重日足姫天皇。四年六月庚戌。云〻由是軽皇子不得固辞。外壇即許云〻以阿倍内麻呂臣為左大臣。蘇我山田石川麻呂臣為右大臣。以大錦冠授中臣鎌子連為内臣。増封若干戸。云〻中臣鎌子連懐至忠之誠。扶宰臣之勢。處官司之上。故進退廃置計役事言云〻辛亥以金策賜阿倍倉梯麻呂大臣与蘇我山田石川麻呂大臣。同二十七。天智紀云。八年冬十月丙午朔乙卯。天皇幸藤原内大臣家親問所患。云〻庚申。天皇遣東宮大皇弟於藤原内大臣家授大織冠与大臣位。仍賜姓為藤原氏。自此以後通曰藤原大臣。辛酉。藤原内大臣薨。云〻甲子

天皇幸藤原内大臣家命大錦上蘇我赤兄臣。奉宣恩詔仍賜金香鑪。云〻編注云。内臣仕奉天皇。左右如大臣。況乎内臣。中臣鎌子連。忠正於内。蒲生野之猟。内臣及群臣。皆悉従。八年十月十五日。内大臣病。天皇親幸其第。問疾。内大臣授大織冠。仍賜大臣位。内大臣奏言。我生無益。唯願以国家事。付皇太子。皇太子再三辞退。内大臣強奏。皇太子乃受。内大臣薨。皇太子奉殯于大原。

一〇之時　資　日本紀　因　日

六十ウ

一うつちつ事はてるとなしたむ十十ウ○とは 乳つまとうち
つ事ようそん。

一山ちはうりうひはあるべくこそんあり。廿四ウ○とは
朗詠 山ちはうりうひはうりうひのあるべくはけつもれぬとかぞしる

蓬生

一すちうけさまの清たりとはせばなるよ。二十ウ○とは
うりきを何とつくまんかゝ絵たりとゆくゝたてとゆくゝと
うりきをむうしハ神とつくゝひりあるひ宿あるはうりべく

一さゝのくゝうしあり。四十ウ花 用ようり○とは 要はなるる
べし。俗ようも要ハゝう。用ハようみくゝ実ようり。

一くゝぶれがちなるめうりは頃五十ウ○とは 禁墻をついひち。又
つゝぶたくゝりとは世とみくゝつきたるハついひち。木竹あく
したくゝかたとはりひくがうりいそび。墻も垣もうはるるる土
よもくゝあり。かくゝふくゝうはそ。をもやくしあり。木竹あくし
たくゝふもがくゝとゝべし。木竹あるをついひちくハいべくゝび。花
ハ限とうふるべし。

一めをくるどりのひさまるゝ山ゝうるりのも。六十オ○とは 既切 上ヌフル 日本紀
頃月 絶 月上

一さやうはるのにもおくゝ却そく 六十ウ○とは 心鈍 コヽロオソク 五十三

一かくゝりり 七十オ 何 唐守○とは 伊勢家条よかくゝりりゞ
道をうづをるひとあり。ふせくゝ。
やへくゝぶる道を夏ひもぶ

うつぼ物語。樓上。

かぐりりぐやどとうんとくあがまよめとつゆんこうかふ人あれ

一かぐやひめものがたり。七十オ○こう物　竹取物語　竹取の翁

一やもたくめもさぐりものにこ物　七十オ　河　弊（テヅサクル）○こう物

弊めもさぐまくこうあるる。何よ出てるるつ。おぐつるれ。弄めも

めもを。日本紀よ。陸さぐるとこうあり。りていそぶるもうあり。物とるよ

物くれつ。とりてたそぐらいへた。陸さぐるも。心物ぐ。

一とめ世めの人めをある。経うちまこ。おこうれひれどいつまこもそいとをづ

かしくしたまひくこんこてまつる人もるひれどまそぐるどえこ世反

ぐど。七十オ○こう物　竹取物語　日記よ。やくもれさせこうもひくこ。ぐふ

これへたまへこで。出これまこふ。洞ぐるこくこあるくこ。いつれ今

やうた女もぐぐひれさげ。さゆうひれさげ。ゆるこ。れくし時

あまはうがはる。さるこのぐやりめこれこてまぐこそぐれく

ものこいげちゆきまん。こく又栄或ア日記をおぐこう女ぐまん

なふこふよむ。黄ふきぐこよむまぐこよ。人世のしきこもをこぐち

いつまやメれこるも。物いこはけこ人れ物ま。今ながめるよこも

見これまあ。ありこいこ後ぐ行きぐこれこひぐ後うきゆう

ありこれこそこちもありこ。人ようてあこぐこう。

ほこうこよ。なこくこ。ちんちこげこ見ゆこ人わここ。ひげ流れ

なる人れまぐこるこるこきゆこふこきれんぐれきこぐ。れ

こるこひぐちこは。ぐこ。殊数のれここるきれぐ。いこんづき

なく見ゆこわぐなこう。

一ちつきまこ人ども。ぐげこしこれ。七十ウ○今物　伊尼

をこちここ。これこるみの人ども。をこ人を。

一りえつ川る書よあひらるん以ゝ九十ウ

河ゆんうぐたるひの上れ早蔵のりと出る書よるりよけうぶ

物ひ川寄いつぐ。きづい寄本れまるあるたとへていへる。○今按

河海よひうまてる寄の八方寄貴八よありて。志貴皇子懽御哥

一首。そて我ゝる寄ゆていつ年ゝ叶へる。芋本ゝものとでりし

出るといつぶ叶寄ゆていつ年ゝ年ゝ叶へる。芋本ゝものとでりし

ゆらのくるかつて誤里るり。

一あいゝうるまぶまくく九十ウ ○今按 元輔家集まつくし

ゆてだいよれんふよほぶずゝてもろうあけゝるゝ。

こがゝもむもれ里きたのむられぬるもあるぬたいしがつゝも

一清れれいい言ゝ文あるもるゝ。ゝ十六オ ○今按 とよ。未摘花の

詞ゝ。ゆ。れのあひゝゝもありしぶゝ。あゝをうけて。うれい物のやく

八十四

ゆれぶかゝ。ゆてゆゝ及ゝ。ゝ。ゝ上ゝ。ゝ。ゝ。

一ゆゝ。たゝてゆゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]

一卯月ばかりの花散里を[illegible]

[illegible]

[illegible]

後[illegible]源氏をあはれ[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

春夜樹。

[illegible]

一[illegible]

○[illegible]

一[illegible]

○[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

人はよりの。○と鈔　顔叔子ぞ故ありけむまごくけそび。
文を用べらべ。ひろ抜ぐらよ。新妙如法ぬ。たてら
塔。かりひを堂を。そはよ不孝ゆ。あがちたらかける
抜ぐるよりく。そわる思ひ合をれど。父学達生はしおり在
ちをへをよを。改ちしく。事結をれは居をへを。孝行はは心
はりく。いををわるを。細流ゆ年老二文法はる人はよ
ゆりくりをを。むう抜結をりをを。たをれゆを。いをぐゆ波
アをゆ。未掃花はをゆはる。はりばるゆべしだうあがちをを人をりう
けをを。いををくはるゆ。はけをび。りはよくべをゆ。あれを抜
をはゆを。ゆはをゆを。塔は俗ゆを。たをゆり。今ハをを
はゆが。堂抜。堂構をりを。りを。
一はりが抜りう。かをはよはけを。サロオ　○と鈔　花ちを生もめりう

あをりくゆ。ぬをゆをりくゆ。未掃花はをゆはりくゆ。ぬゆをど。
抜りくゆはをりはりくかをを。
一ちりををしゆはりをどりを。
○と鈔　諸本如此　サ六オ

関屋

一むりをりをを。をををを

して切べし。それ和ともつぐくるもとをびきとをびつぐ
とをすつぐくるをあれもあるくるをあるくるを自結あ遣
きをとをつぐくるをあるくるをあるくるをあるくるを自結あ遣
けくるをあるくるをあるくるをあるくるを自結あ遣
きをびをつぐくるをあるくるをあるくるを自結あ遣
たまをつぐくるをあるくるをあるくるを自結あ遣
けをとをびをつぐくるをあるくるをあるくるを自結あ遣
たをを自結あ遣

繪合

一 さうぐはさまはきをつぐる。三十オ 細さしくくる。只梯歌。

抄 復はけをとをおくるをつぐくるを結を。組。をくるをたる歌。又云。仏教はけをとを
くるをたる。私あ遣はけをとをつぐくるを。組をとをつぐくるをつぐくるを
○とを接 和名抄第十四。容飾具云。唐韻云。梳、音疎、訓ミ久シ
櫛 細櫛也。枇、毗志反。和名保曽岐久之 百刺櫛、佐久之 同巻。服
玩具云。禮記注云。綬、音受。和名久美。所以貫珮玉相受兼上
也。又用組字 補音 此字。何をうまをつぐくるを結をつぐくるを
をつぐくるをいとをつぐくるを。説をつぐくるを。指をつぐくるを
結をを。抄へをつぐくるをけをを人をけをつぐくるをふをを結ひをつぐくるを
入ををつぐくるを。
懐をを紙をををを

うどさけうやうよびさへらを。結袋といひく。それよめさと入
たるこで。二ことそれ袋よ付く。清くト白井はねさとつ袋。
業元物語よ。さきひとこ絡ひよ。たれ物いまくつろひ。む
柴梅は物ありこ。行ろ。葉物はそまはそよ梅ぬはつり物
をきたらんをもろぐ。ろのくこあやこ。ぬ。くりかをいそね
事ひたくこあり。今あ物。ふ。ろぐ出きねばくこ
ふひくあうももくれろう。又はろいろくこんなきれ
きるぢんはそきよ。はるぐ。ねのぢはさろ。ぐいといはやし。と
いへも。洗は箱よ。洗は箱はめろ物とさ。れろ。それ箱
はころこぐれる故よ。はるぐ。ねとい。ふ。ひくこ。ぐ。ろはのぬ。ば。
はれぐ。ねとろ。ひ。ねてひりめぐし。物こぐ。能宣はころこ。
めきを袋よいれく。それ。ろはよこぐをさせぐ。ぬさと。袋とは。

ぬよいへるよや。

一 ゆこぐ。ひろ。ちなぐ。ゆこ。ろ人ア。三丁ウ 細はぐろく。ちぐ。こと。
孟時 日本紀 ○ト雜 日本紀よ。ゆぐ。ろ。いよ。ゆ。ぬ。ぬ。後
拾遺雜二。門ぬ。ろ。ひ。ぬ。ゆ。ぬ。ゆ。ぬ。ゆ

一 [illegible]

○とは 神代はるかもいらぬ葉平は神世はるかもはりひ出め。
[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible] 十八ウ 細 右方一番は猶[illegible]
と一番あらぬ時須戸は絵いでたり。○とは [illegible]
幾番[illegible]
[illegible]
をぐらをとり物紀[illegible]
一 [illegible]

日記あるは何

一家はもの中あるは[illegible]
[illegible]二十ウ○今は 日本紀と良家子
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一いろいろの[illegible]
○今は 勝[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

松風

一かれとのくちのうげるかうけてとれるとあるて。四十オ○今按かうけてとはたくへバ。家を後ろよりひきくをつくるおろく。彼殿の法華よりをいつ。ねりかとあるてくバ。ねりかをいひ。のうくうなり。

一法華ゆうくるはを四十ウ○今按百家雪十七。家抱老考。法華ゆうくるはをきてとつくバ法華ゆうくバ。魚ゆう。真魚にくぎゆうくるゆる抱きてうもがやしてうにくきう但のつ。日本紀ゆ嚙はをとつゆ。法華のんとみも。

一法華ゆうくちあうあ法華。ちちあきいへど。四十ウ○今按東坡も。虎をまうちゆうとうを。蜂まハかくうくう。蜂の

身ゆ近つく附そうそぶ。れつゆくひより。法華よあつうわバゆうくみやくとつくよ。文こうん。田ちうけるゆ。已ゆ抱ゆやうる抱りひをれる抱よ。法華ゆ。とうつをさまくくようかくまどきくうくうひゆてきうゆ。よつて城塁ぶくくいへ。時花ゆ。猿を抱ゆ猫くとゆる。たぶうゆとゆうれるゆ。

一抱れぶうゆをれくくいつくゆ。れバそれゆくぶ。ゆくまどれ理ゆ。抱を集かうよ。

春ゆれぶ同くとうゆ。

一ちくくちうもかへくくじ。れをまゆ春バ文俊せく　源順

ぶちれり。七オ○七按くくかくくちゆ法ゆそへく。神ゆれ

ゆれぶちれうよ。かれうよ。バ上ゆくくじと。下ゆくそて

一天ようもろこし人は七十才○と雖　細流より天上欲退時の文
はとゝるべく然れども人は心を見べし但
今勢人のわる人を天へもはるる極れ知みく。ろゝをさ若
なるとゝるべきれば用ゆべゝ。生敬を天よりもろこと。三
奎ろくるとゝひとりは天人は上の昇沈みく。都人のわる
人とゝるなるはやぐまるゝ人とゝるるるるるべゝ。おはるれ
しひはるをいとんとゝ天をるるく。三奎ろ下
るん時は無しひよゝるべゝへゝるゝくゝ。
一いくゝへゝるゝ杜をるゝ一はゝうはるよりて家ゆるん杜
○と雖
天川うはるよりわる我るれはるしみるはるべゝ母を好るほゝり
一かくゝうをゝずゝ行るゝ人は心ぐちるもゝうはれ。　河上秀

人ゝるゝ心ひのゝ行ゝ家ゝれゝ心ゝるゝゝ心ゝるゝゝ心ゝはれ
○と雖　は川家。何ゝ生ゝるゝ邦ゝつゝるゝ。六帖ゝ
杜ゝ者はゝゝゝゝ山はゝ山ゝるゝゝゝゝ

[illegible]

一めぐりし[illegible]十六ウ ○とも抜　本朝文粋。芽十三ヨ。

慶滋保胤[illegible]勧学院佛名廻文一篇[illegible]。

[illegible]善根を[illegible]。

一里[illegible]十六ウ　花

里[illegible]

○とも抜　[illegible]

一[illegible]。

里[illegible]

人[illegible]

[illegible]。

一[illegible]十九オ ○とも抜　撞仙窟云與(サシテ)

頭門中忽見十娘(ハタカクシルスルヲ)半面。小所[illegible]。

一[illegible]十九ウ ○とも抜

[illegible]

一[illegible]

○とも抜　[illegible]。東[illegible]月(サヤウ)[illegible]。

久[illegible]

薄雲

一ちぐさとそとくもかくくも。同しあと。三十ウ ○と按 塚丸
世めのまハとくくもかくくも地れすこと云もちくれれば
一又をとそれちくくし絶めくくんあと。三十ウ ○と按 万葉十一
たくくちまはたくぐまをかくぐるくもべれたくいまぐせるくま
一かくくもぐセオ ○と按 去拾式めやかのかもくあり。
一たぐひわだくめ。年をたひたのひくくひつたぐうつくし
けさくひくくたくたくくる。十十オ ○と按 万葉十六 竹玉箱
寿よ。みぐくまはくぐみくぐくくまたくくもめはくくいくくれより
たくくたくちのみぐ月くまをのつくくきねひつくくめひたくく 枕
まくくを。ちくくよくくたくくちぐはけるかくはあひたくをたい
やくくおくくぶたくく始るどくるひとくいくくたくをたくぐけく

由ひくくぶおくめくくめ白うをくくげるくもくんくうくく。又云。
いくくうあくたくくちぐめくるぐ志ゆうくうくく
たくぐふくくなめくくものきどくきねうぐくくたくくたくぐ
くくひ出家くるもいくくうくく。

一うくくくくるおくよ十十ウ ○と按 遅く 万葉
一法さくめたくくくよかくくくく。十二オ ○と按 神代紀下
云。則攀持衣帯不可排離。
一ちくくくへくくおん 十二オ 河海 樵人を引。式注。樵人を花人を
いくぶおくくうくく。和名抄云。尾張國愛智
郡作良郷。おれより。万葉三十九。
播田へ年月多紀ちくくたくめち宮汐ひよけくし 鶴亭 高市黒人

おれ搦田を。搦人は。為は田をとりたちつくられるといへる。乃
ち人し作良御ハ。海を色あくろ。はやへを為はたくろ。
田はたを。為は田とらへ。
名を行ろくろくつくるを田をりるつけつくられはくる
代数和ズ。それあるとどあハ。それあとせくあよ和ろ。おとをろ
はたをハいをあハ。おとを載ろ。時日もいをあり。古事記は。
仁徳を皇はは法ろる。
やたは。一ろくを事を。おりしび。おをちろはれをん。はろく萱原。
おくをろ。萱原といをあ。はろく萱原。
日本紀は。本梨経を子は御あは。
和ろさくを。おをろをあり。和御はろ。ハくをんぞ。をび
たくをあ。ろくを。ろたくをいをあ。わろはあ。

おれ。おくを。ろに和御はは。はとさと
同顔はを。ろれハ。妻有せれを。ろよちていへは。はあを。さ先。
又催ろ。ホは中は。はやあを。さや先。といへ。ろはおくを。さ和おじハ。
実不来ろくを。おくを。ろ来じと和ろ。おくをを。ろ時日和ろあん
といをあ。鳴田を。ろくをあん。といあハ。おくを。せあくを。おくをハ。かは
ろくは書はろ。せ和ろ。和ろを。はろ。
沢はろ。はろを。ろを。はは。ろ来じと和ろ。細流を。
ろ和を。じ。

一
ろ中くはを。ろをくハ。和は和ろ。十二ウ ○を抜 は和和ろハ。
あ和ろ和ろを。和ろを。ろ和ろ。はを和ろ。ハくを人は。ろを和ろ。
おれ和ろ。はろ和ろを。はろを。ろをはくハ。ろ和ろ。
一
あ和ろくはろ。はろ。
ろ和ろ。十二ウ ○を抜 拾遺

書き物にかくれなく知られ花ざうし公のどけれ人名のしれ忠岑
一うしくしげるる御ちをくあたまひつ。十二ウ ○と牧 くと
ふと。回翁みくをびきば。合はるとくむとも。ふくむとも後く。
育はる字をとくむとよむも。八羽合みく。鳥はるを羽のト
一よくむくかすると。出くる河みく。
たくよはるまはるがくよ。うはもどれくくば。くくさくもかれ
べたるものを。ねどはがば。十三オ ○と牧 四石上は人ぐ。はれ
うをとかしあるをいつて。はひまさうゆくらつまぐうけ
つく世を。まはうまの初ぐ。はわくくはきくくは受
頭ぐうはる人はむをあるる。容鉢うぐば。廣くたづまぐ。
かくうたぐひかくんやば。野かりぬべはまくおりひるをべた
をはれを訳は入をくうひがりはく冥くられ大臣は孫るれぐ。

移姓をさくもかうねべはかわど。はがくはすらるん。細流帰花
笛は説。くるのべくはくはくはくば。
一美はくるのうはくくう 十四オ 河
世はは美はくるはうはは
○と牧 は。何は出くるる。六帖ぐはくはくば。
一くはくくはくは世はは中さわぐくくる。十六オ ○と牧 侍聚
家集年はは中さわぐはくくる。
さぐはれはくをきくは須くう紬のくるくふちせるはれ
六帖は。はくくはくはくはは。
一人やうくてはくくくくは。十七オ ○と牧 萩家万葉は。
うくてくはひは袖はくはれるくはは。別撰ゆ
かくせくはくは。古事記は。雄畧天皇は法はるくは。

せうこ安よ。市邑押歯皇子め。物のうちへうを。舎人どもうと
て物いつゝおとりけゝ。らても物す。
一まろろよむせひ物うつ 廿二オ ○とも物 万葉ろ
白あめ物種ろうんぢ物白をちうこをよむせひ物のひしうる
一宮もかくれだこふや。きうしうる紀ろ。 三十ウ 細
いろくめむうめるをいしかくれ袖ぞ家けうゆる 小町ぶ
○とも物 ひ方。何ろう出うこうる。小町ぶうけうこ。古とも物探よ
外。物ひ案。六帖ろもろうぶ。
一りし煙ひむをがうれこうひけんを 廿三オ 細
ひをがれりし煙をいうぶせん家ぶこかけよろう紀ちぶうを
○とも物 ひ方。何よ出ろこうふうもうぶ。
一つゝかんとくわうたまひぬ 廿四ウ 河

たこゝん人ひうろうつ紀をつ紀物ともうぶん
○とも物 ひ物ひ方。何ろを出ろうふの。伊探ま一。
ろう人をあ人ひ物ひ人物ぶ家ん物ひもうぶく
ひ方。ろこうしたうよ。ろ紀ぶ。
一やひ紀ひ物ろこをたる。清ひうこうろ。 廿四ウ ○とも物
細清ぶひうる。ろ。伊物遠条。ろこ。中京殿町ぶこうふく。
鄙しうろ物。作者部物ま。斎文寮頭四位。治ウ大補
有家子。長保六年卒。とうう。長保ま。一条院治宇ひ年
号。五ま。ひうく。ひま。寛弘八年ひう。六ま。ろ人。誤物。り。六
年其月ま。寛弘元年ま。物ぶうる。ひうぶ。改ぶぶる。ひ紀ふ。
物遠ま物物。ひ物ぶうるとうしひ紀ようるぶのう。
一ふさうしうぬ 廿五ウ 河 不祥 ○とも物 ま。不祥ひ方。

日本紀にはうつくしつかなどにてやうなり。

一いつくおりつくとしてとしてうれしと。世五ウ○と梅　はりつきて。

如思ふくもつるんにはれ。とはけるを。はりつくどるどりてるはれ

ゆうれ。ずいとはけを。行文様。

一ちとはうれはと　サ六ウ　細

ちとはりつくどるはり　ちはけ

○と梅　はりつ　六帖中と二。法雨。ヰ五。ちひとづらつ雨ちて

我たるとるとるる。初は五りづ。うるかるるはり。法雨下入る

ふるとりはうれはるつと。深はとうるるたるとるとるつはれる

うるべし。

樟

一あちくしくはづくたるんるるる。三丁オ○と梅

ちはは日紀とふはるとはだうるるるるるるるくはれ人ふる

うるるはうはるるるるるはるるる。

一かしまくるるはたるんるはるるるるるはと。折うはるるる。三丁オ○

ちは梅　はうはるるるるるはるるるるるるる

はぐろ坂あるひぢうちあるいつつ坂よりまつさぎ又位は冠
神さびよけるとぞ。斎宮をまつりくれ詞なり。
一 今人もかぐ神はもしを五十ウ○とも歌 はぐろ下白。細流盃
はは注うもとぞ。斎宮を祝ひまつりぬ。今人何はいまるまま
生たまんとをとんを出つ。でけてうみく知べし。いさ知ん神の
いきむうをかくみをよる出てるつ又万坂の勇九。登筑波
嶺為嬬、哥會日作歌十首
他妻尓吾毛交年吾妻尓他毛言問。此山乎牛
掃神之従来不禁行事叙。
日本紀云。制はをいきむうをうり。
一 そは和のつくをうをかくみ知ぐの風よたんをうを紀。六十オ細河
海よ見くたり。東国は風をつよ。○とも歌 級長戸辺。風

神は名。科戸風といまかりよ坂ぐ。細流は流はあまりく。
一 うをぐをを神を六十オ細
意せぐをうをぐを神をうは坂ぐをうをとをくつをうをくを
○とも歌 はをのを。宮をあをはは流をり。
一 をくゆぐむをををぐはをうをハ十オ○とも歌 頬喝をり。
一 ををを紀云は十一オ細
をををのをうをは流をを紀ををはをぐをくをくをうををまをは
○とも歌 はを。何ををををうを。万坂をを。
日比 をををを

入せば。て極人は如何めいてあるべきやけられ〳〵ぶ。おれ〳〵う入るよ
ゐり。

一 こかどりさんぜるけもびうとぐ紀いどぎこさく。十二オ○ム鞍
うとも紀と。下はもとつ。ふく春みや。足はるべきくうすづく
やうにしまぐくわや。

一 ゐゐゐゐせはあれさ 十三オ○と鞍 下はかをたうとやくとうとよ。
ゐはゐせはたるまで。て極殺。源氏は者を訳したまるべ。
くちびさびも。それよ意ぶべるよ。或人て文。うれるもひく。猛
れく。ひれ〳〵はは人物よ感しまぶちとさ陸
ぐは仏知るる者みはなれど。こどりはぜうはくたるべと。
うれるつるとぶ氏きはれどれくれたるを思べれ。訳
しく。身は仏のるれ仏ちるるを訳ぜんぶ。うしれる。

一 さるとうよちるつはふく 十四オ○今鞍 和名抄云。張揖云。鐸
鈗難之天多二音。都岐舌不正也。

一 いひまるわぶるるぶ。ゐれかるはれ。十四オ 細
身とるしといひるうれるとるるるとと人はうと人もるびぐべれは
○と鞍 はは。何ふるはれ。

一 人はるるるるでのるはせんを。十六オ○と鞍 後撰云五
はるるかるれり一てるるるはるる人つてれるで者るるる人敦忠

一 ふるるづるるはるるはひるるるれと。十六オ 河
ゐひるるも仏づるれるるれれれれるるれれるるるるるるるる
○と鞍 はるる。何ふる見るる。

一 いるるる世はるるる。 十六オ○と鞍
るるるびく世はるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

一 [illegible]。十六オ○こと梅 古今集古本よりいとかしこし。[illegible]

[illegible]

一 [illegible]。十九ウ 細 [illegible]

[illegible]

○こと梅 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]。[illegible]

[illegible]

[illegible]

とのゝくらといみのゆくらとゆくらと。はやりごうるべし。日本紀。富
寶とゝゝたゆゝてゝとゆくらゝ又ゆくらゝ
強力で種姓こゝ賞めゝゝ人を。後四位ゝゝ。ゝゝ
好年月を経ゝゝ。ゝゝ学とつゝゝも。ゝゝがゝ紀を。書位
ゝゝゝ

人ちかねをかけうちをはせてうばとまぐつて紅人をけうじて遊人を
制動擬。意味之。中紙を定頼。をかけうちをはせてうばとくゆて
はるはまばらめる。
たづ人はをかけうちをはせてうばとつてをかけ教やまうん 遊人名
一 をそ弁はをかもうまぐおもやとひとりおちてまけそい。サハウ 細
雪海老を弁はをかもうまぐおもやとれをそ紙はをかうん
○とり鞍 はをか。何みかうつはつまぐ和うん
一 いとさうをかをはをけうをとうん サカ 花 鱸はをかをとさくゆとよ
はりうをうくしはる雑みうう。○とり鞍 和名抄。剣鏤具
云。唐韻云。鱸。許規反。和名 攻之 利。角錐。童子佩鱸。説文云。角
鋭端可以解結者也
一 いうくみうはをかをはいうをあける中はをかをはをかう

○とり鞍 いうくをを。夕暮はをかうる。紅はをかをとをう
をかをはをかう。中はをかを。
反切底五 つうをうをかうをうをうを

一けぶしう 四十四ウ ○と雅 今は侍ふる。たまくいつ同すぎたの
けを渡りくいつるの。
一まゝづつ ○よろこんを 四十一ウ ○と雅 海を。いまゝゝ。
そをみと略れり。備ゝ系よ。あとあまとまとゝ行ゝも。汝ゞ系と
驚あせゝいつるの。
一さんちゝハ 四十二ウ ○と雅 時時日記みる仕同却り。
一何ゝハ六位など 四十五ウ ○と雅 仕何ゝハゝよゝ何ゝ
かゝ知ゞゝる。却りひゝ。ゝうとのゝまゝ堂
弁は居ゝハ。知りゝ六位とゝわゝゝ。名書は却りひゝく。
却りゝもんゝゝ。ゝ系ゝ。ゝゝのゝまゝと。行ゝん
さゝゝく。侍ゝ筋は侍ゝんゝ。
一大夏はゝ系ゝ。ゝまゝゝ。四十七オ ○と雅

たゝ系ゝ系はゝゝゝと知ゝく。ゝゝゝゝ知ゝゝゝゝゝゝゝ。
たゝりゝゝ。
一ゝゝたゝゝを系ゝゝゝる 四十八オ 細 同弁とちゝゝゝゝたゝん。○
と雅 ゝゝゝゝ却りゝゝゝゝ。ゝ侍弁情ゝ。ゝゝゝゝゝゝ
同弁ゝ。世は弁と系ゝゝゝゝゝゝゝ。
一ゝゝゝゝゝゝゝ

一 [illegible] 五十ウ ○と錄 [illegible]

一 [illegible] 五十ウ ○と錄 [illegible]

一 [illegible] 五十三才

○と錄 白氏文集云 [illegible] 本如此

一 [illegible] 五十四ウ ○と錄 定家卿

[illegible]